介護福祉学科学生におけるボランティア活動推奨の取り組みの現状と課題
A report and problems of recommendation for volunteer activity in care work student

高橋宏子
Hiroko TAKAHASI
合津千香
Chika GOUZU

I．はじめに

四年生大学や短期大学、専門学校におけるボランティア活動は、以前からボランティアサークルが中心となり活動していた。また、学生が個人として学外のボランティアサークルや団体に所属し活動することもあった①。しかし、今回ボランティア活動は課外活動や学外の活動というだけでなく、高等教育機関における学習・教育の根幹にかかわる課題となってきている。多くの学生が豊かな生活体験を経験せず進学してくる中で、大学における学習と教育のあり方が問われている。そこで、大学と地域社会の連携を強め、科学と体験を結びつけることによって確かな力の形成が目指されている。その展開の方法として、1つは授業の中での扱い、2つにボランティアセンターの設置、3つに課外活動して推進されてきている②。

本学介護福祉学科においても、学外からのボランティアの依頼を受けた学生部が、掲示板を通じて学生に情報を提供したり、教員個人が依頼に対し、直接学生に対して適任者を探すなどの橋渡し役を担っていることが多い。また、何年か前には、ボランティアサークルが存在し、学外からのボランティアの依頼をそのサークルに持っていくと、すぐ適任者が見つかるような学生の窓口が存在したとのことであるが、最近はその窓口を学生部または教員が行わないと、なかなか適任者が見つからないのが現状である。ボランティア活動を単位として認めるという動きがある中で、本来の自主的な、自由な活動を阻むことになるのでないかということで、まだ授業の一環としては位置づけられてはいない。

しかし、平成15年度に学生に対するボランティア活動の現状を把握するためのアンケートを行ったところ、ボランティア活動の学びとして、“実習のときとは違った視点から現場を見ることができた”、“実習では体験できなかったことを経験できた”、“ボランティアの存在の重要性を感じた”、などの実習には無い現場からの学びが多いことがわたかった。そこでより多くの学生を、より多くの学びの場に結び付けられないかということで、平成16年度からボランティア活動を学科として推奨し始めた。それらの支援を通して、学生がどのような場で、何を学んでいるか、またボランティア活動に対する学生の考え方を聞き、短大としてボランティア活動をどう支援していくべきか、その課題を考えたい。

II．方法

1．平成16年4月にボランティア活動推奨として目的、目標とする時間、活動参加の方法を明らかにした個人のボランティアカードを作成し、学生個人に配布し、説明し同意を得た。
1）目的

①ボランティア精神である自由性、自主性、自己責任を学ぶ。
②さまざまなボランティア活動を通じて、広い視野や社会性を身につける
③学校生活や実習で学べない場や分野を自主的な活動を通じて体験できる
④就職活動に主導的に取り組む機会とする

2）目標とするボランティア活動時間

1年は1期実習終了後から春休みまでの間の24時間以上を、2年は卒業までに16時間以上を、また1、2年次あわせて40時間を目標と掲げた。

3）活動参加の方法

①施設、地域、関係機関から学校に直接依頼があったもの（主に夏祭りや外出などの行事的なもの）　②実習施設からのボランティア受け入れ申請によるもの（実習指導者会議においてボランティア活動推奨の取り組みを説明し、実習施設において学生ボランティアとして受け入れ可能な内容や日時を明記して送っていたものをリストとした）　③市町村社会福祉協議会のボランティアセンターを通じて募集があったもの　④学生が個人で希望するもの、以上のいずれかの方法を挙げた。①に関しては、学生部掲示板に掲示し、または担当教員が呼びかけを行い、参加希望学生は募集期限までに学生部で必要事項を記入し、学生部から取りまとめて施設主催者に連絡していた。代表学生は依頼先と必要連絡を取り合った。②、③については、学生が学生部から情報を得て、直接連絡を取り、活動が決定したら学生部にボランティア届けを提出させた。④については、学生が活動を希望する依頼先に自由に問い合わせ活動が決定したら学生部にボランティア届けを提出させた。どの場合も学生が自主性と責任の下で行動し、参加を予定していたボランティアを欠席する場合は、必ず事前に施設主催者に自分で連絡をとるよう指導した。ボランティア活動中、事故やトラブルが生じた場合は担当者に指示を仰ぎ、収束したら直ちに学生部と担当教員に連絡を入れさせるよう指導した。ボランティア活動参加者は必ずボランティア保険に加入することを説明し、学生の自由意志のもとに取りまとめ年度初めに教員が申し込んだ。ボランティア活動終了後には、「ボランティア個人カード」に施設の印またはサインをいただき、ボランティアを行った内容や感想等を記入するよう指導した。施設のサインなどをもらえなかった場合は後日教員がサインを行った。

2．各学年とも4月・5月に、ボランティアの基本理念や心構え、遵守事項を説明したオリエンテーションを行った。

3．平成16年度のボランティア活動の個人カードを回収し、実態を把握した。

（1）活動日時　（2）活動した場　（3）活動時間　（4）活動した累積時間　（5）活動の内容及び感想

4．平成17年11月に学生に対してアンケートを実施し、ボランティア活動の実態と学生の思いをまとめた。

（1）活動の有無　（2）活動回数　（3）活動した累積時間　（4）活動内容　（5）活動のきっかけ　（6）活動を行ってみての感想　（7）活動を行わなかった理由　（8）これからの活動の思い　（9）活動しなかった学生が考えるボランティア活動実施の条件
Ⅲ．結果
1. 平成16年度のボランティア活動実態（平成16年5月～平成17年3月）
学生の個人カード回収により、以下の内容をまとめた。

1）ボランティア活動時間
1時間でも活動した学生は、1年生では22名（21.2%）、2年生では45名（45.0%）であり、2年生のほうが多かった。また1年間のボランティア活動目標時間を1年次は24時間、2年次は16時間と学科としては推奨したが、各学年の目標時間数に達していた学生数は、1年生10名（9.6%）、2年生22名（22.0%）で、ボランティア活動を1時間でも行った学生中の割合は45.5%、2年生は48.9%ともに半数弱であった。また累積活動時間の多い学生は1年生では143.5時間、2年生では56時間にも達していた。まったく活動に参加していない学生は、1年次では8割弱、2年次では半数にいたった。

2）ボランティア活動の延べ件数及び活動月
1年生は76件、2年生は117件であった。また、活動した月は1年生、2年生とともに8月が最も多かった。次いで2年生は7月、9月、6月、11月、5月の順で夏休み前後に集中していたが、1年生は3月、12月、6月、9月、7月の順で冬季や年度末に活動している学生もいた。

3）ボランティア活動した場
1年生では、通所介護、特養、病院、地域、老健、地震被災地、身障施設の順で、2年生では老健、身障、特養、社協、地域などの順で、2年生のほうが活動場所が多かった。

4）ボランティアの活動内容、感想など
参考資料より、ボランティアを行った感想の中で多いのは、“利用者と行事を楽しみにしている”“実習では経験できないことを経験できた”“利用者ともに楽しみめた”“利用者にとって家族は大切であることを再認識した”“地域の方と触れ合うことができ勉強になった”など、肯定的に捉えている感想が多かった。

2. 平成17年度のボランティア活動実態とボランティア活動に対する学生の思い
平成17年11月に1年生、2年生に対し、アンケート調査を行った。回収率は1年生90名（87.4%）、2年生84名（79.2%）であった。高校時代にボランティアを経験したことのある学生は1年生では65名（63.1%）、2年生では51名（48.1%）であった。

1）ボランティア活動の有無、回数および時間
ボランティア活動の有無については、活動した学生は、1年生では48名（46.6%）、2年生では61名（57.5%）であり、2年生のほうが多かった。また、平成16年度よりも1年生も2年生も多かった。活動回数については、1年生は1-2回が31人（64.5%）と最も多く、次いで5回以上10名（20.9%）であった。2年生については、1-2回38名（62.3%）、3-4回17名（27.9%）であった。各学年の目標時間数に11月現在達していた学生数は、1年生14名（13.6%）、2年生24名（22.6%）であった。

2）ボランティア活動のきっかけおよび活動の場
活動のきっかけを自由解答で尋ねたところ、最も多かったのは1年生では、学習に役立
3）ボランティア活動を行ってみての感想

1年生、2年生ともに、学習に役立った22名、で最も多く、次いで1年生では実習に役立った15名、2年生では就職活動に役立った15名、実習に役立った9名、の順であった。その他の記述の中には、1年生には、障害児と高齢者の関わり方の違いがわかった、喜んだ、自分から何かをすることができました、授業で通っていないことを学べた、実習では関わらないことを職員に教えた、行事の実際を知った実習施設とは違った施設で違った雰囲気を感じた、利用者の違う面を見ることができた、将来ここで働きたいと思った、などがあった。また2年生では、高齢者とのコミュニケーションのとり方を学んだ、実習後の施設で実習では見られない施設生活を見ることができた、たくさんの方に関わって楽しかった、今まで経験できなかったことが経験できた、施設の雰囲気を知ることができた、ゼミで発表することの楽しさを味わえた、今まで会ったことのない障害の方と接することことができた、実際に動いたほうが覚えられる、実習後であったので実習のお礼ができただけはないか、利用者と関わることで利用者の気持ちを知ることができた、就職活動に結びついて、たくさんの方と接しているいろいろな関わり方がわかった、実習にはない気軽さがありがたく、などの感想があった。

4）ボランティア活動を行わなかった理由

平成17年5月から11月までの間にボランティア活動を行わなかった、と答えた学生は、不明な学生も含めると、1年生では42名（40.8%）、2年生は23名（21.7%）であった。平成16年度にボランティア活動を行わなかった学生は1年生82名（78.9%）、2年生55名（55%）と17年度のほうが少なかった。平成17年度の2年生は平成16年度の1年生にあたり、1年のときは活動しなかった学生が多かったが、2年生になって活動する学生が増えたと考えられる。ボランティア活動を行わなかった理由を聞いたところ、1年生では、場所がわからない、時間と場所の都合が合わなかった、忙しく、知っているところではない、という声が聞かれ、2年生では、時間が無いため、希望しても人数が多くてできなかった、などの意見が新たにあった。
5) 活動しなかった学生が考えるボランティア活動実施の条件

ボランティア活動をまったく行わなかった学生にどんな条件が揃えば活動できるか、尋ねたところ、1年生では、学校から近いところであれば、地元であれば、自分でもいける距離であれば、知っているところでであれば、気持ちが前向きになれば、身体障害者施設でしたいので機会があれば、で2年生では自分の家に近ければ、時間と場所が正確にわかり自分の都合と合えば、バイトを減らせば、などの意見があった。

IV. 考察

1) ボランティア活動推奨による学生の積極的な取り組み

この2年間の学科としてのボランティア活動推奨の取り組みにおいて、16年度は個人カードの回収、平成17年度においてアンケート調査という方法で取りまとめたところ、学科としての活動の推奨によるものか否かは不明であるが、平成16年度よりも、平成17年度のほうが参加する学生数が増えた。累積時間が目標時間の5 - 6倍に達する学生もいて、活動を積極的に行う学生は教員が想像している以上に行っており、同一箇所で継続的に行っている学生もいることがわかった。また、ボランティア活動を行った学生数が2年生のほうが1年生に比べて多いのは、実習は何回か経験して現場に慣れたことによって自主的に活動する意欲が生まれてきたのか、また就職活動など将来を見越した学生自身の目的が明確にあることが予想される。就職活動目的が主であって、本来のボランティアの意味合いが違ったようにも感じられるが、個人カードの感想や反省から“楽しめた”“新たなことを発見できた”“学ぶことが多かった”などという前向きな記述が多く、実習同様、体験学習としてその効果は軽視できない。介護福祉教育における実習の機会は、人間関係および、自己を成熟させる最高の機会である。今まで体験できなかった貴重な体験が豊富にある。自分よりも年配でありながらも自分たちの支援を持ってくださっているという期待される立場に立たされる体験、自分中心に生きてきたが相手の身になって考えなければならないという体験、何度か経験する実習は、どれだけ自分が成熟してきただけを見つめるよい機会となると思われる。ボランティア活動も自主的で、自由で責任ある行動をもって、広い視野や社会性を身につけたり、学生生活や実習などでは学べない場や分野を活動を通して体験することを目的にしていたので、その目的は達成できたと思われる。実習は評価されるという緊張感が常に生じるが、ボランティア活動は評価が無いかに、気軽にともに楽しめることにもつながる。緊張感が軽減された状態であるから、より利用者に近づくことができ、利用者の思いなどにも触れられるのではないかと思う。

2) ボランティア活動に至らない理由

ボランティア活動を行った学生はそのような効果が少なかったあったと思われるが、活動しなかった学生は1年生、2年生で半数以上いることはとても残念なことである。まったく行わなかった学生については、強制的に働きかけることは、ボランティアの本来の目的に沿わないが、活動に参加できなかった理由を確認し、改善できることが有いか検討する必要がある。ボランティア活動をしなかった理由には、1年生では場所がわからない、時間と場所の都合が合わなかった、忙しい、知っているところでなかった、2年生では時間が無い、希望しても人数が多くてできなかったなどの意見があった。在籍学生の中には、隣接市町村から電車等で1時間以
上記で通ってる学生も多く、また1年生は車等も所持しないなどの交通の往復の問題もあるのかと思われる。また、ボランティア活動をしなかった学生に対して、どんな条件が揃えばボランティア活動ができるかを問いかけてところ、1, 2年生とも、学校から近いところであれば、地元であれば、自分でもいける距離であれば、知っているところであれば、が開かれたことにより、往復に要する時間や交通手段が少なからず関与している。また、時間と場所が正確にわかり、自分の都合と合えば、気持ちが前向きになれば、身体障害者施設でいったことなど、ボランティア情報がより広く深く伝わり、学生個々の条件にあうことによって学生の活動もより多くなるのではないかとも思われる。

3）ボランティアセンター設置への期待

本学における学生の自主的なボランティア活動をさらに推進するためには、本学内にボランティアセンターを設置することが不可欠である。ボランティアセンターの役割としては、ボランティア活動に関する情報の収集と提供、ボランティア活動希望学生と活動の場との連絡調整、ボランティア活動に関する相談・助言、ボランティアの養成、他機関との連携、ボランティア活動に関する広報などである。今まで学生部や各教員に個々に依頼された外部の施設・関係機関ニュースからのニーズをボランティアセンターに集約し、情報提供し、それぞれの学生と依頼ニーズをコーディネートする。そしてボランティア活動上の学んだことや疑問に思ったことを話し合ったり、相談して、次の活動につなげていくという役割が期待されている。「条件さえ整えば活動に参加したい」といった学生への窓口となるとともに、ただお手伝いに行くのではなく自分の学びや感じ方を振り返り、新たな活動にしていくための学生間の交流の場を確保することが重要である。また、ボランティアセンターにはボランティアコーディネーターという専門職員を配置することによって初めてその機能を発揮することとなる。コーディネーターはボランティアセンターに常駐し、上記の業務を行う。

学生のボランティア活動は、在学期間だけで活動が終わってしまい、継続性に欠けるという面があり、施設での活動に比して在宅でのニーズに応える活動は困難であると考えられるが、学年間の繰り返しによる1つの活動を引き続きいくことも可能である。筆者が市のボランティアセンターのボランティアコーディネーターとして、コーディネートした事例では、多動性の自閉症児の遊び相手として本学の学生が、後輩に活動を引き継ぐことにより、十数年間継続してその子の成長とその家族を支えた。ボランティアセンターの設置により、この例のような地域の在宅ニーズに継続的に対応でき、その活動の蓄積を引き継いでいくことが可能となると考える。このように、本学のボランティアセンターが地域のボランティアセンターとしても機能し、地域の人々が気軽に立ち寄って、介護や子育て等についての相談ができ、学生が地域の一員としてその支援活動に関わることができるような体制をめざしていくべきであろう。

ボランティアセンターの設置とこれに関わる活動は学科を超えた学生間、教員間の交流と協働活動につながると同時に、地域住民との交流・協働の場となり、地域社会とともに歩むことができる短大としての第一歩の実践となると考える。

V．まとめ

今回、介護福祉学科として学生のボランティア活動推奨の取り組みを振り返り、これからの短大としての学生のボランティア活動への支援の課題を考えてきた。介護の学びの基礎は人間
関係であるから、介護を支える学生が人間的に成熟しなければならない。体験学習は知識と技術の学習とともに、人間性を育成するものである。ボランティアを行って、“実習の時は違う視点から見ることができた”、“実習で経験できなかったことが経験できた”、“地域の方とふれあうことができ勉強になった”など、実習では学べない、新たな気づきが多い。実習期間、実習施設など制限が多い中で、ボランティア活動は自由に、自主的に、自分を高めることができる体験学習ということができるであろう。よりきめ細かい情報の提供によって、より多くの学生がボランティア活動に積極的に取り組む宮本ところである。ボランティア活動を積極的に行っている学生の中には継続的に関わっている学生もいた。また1回でも行った学生においてもその学びは大きい。その具体的な内容や感想を文字にし、新聞などにまとめ、全学科に配布するなどすることが学生の励みや意識変革となって、さらなる積極的な活動にもつながるのでないかと思われるので取り組んでいければと思う。

VI．参考文献
1）日本福祉教育・ボランティア学習学会機関誌編集委員会；福祉教育・ボランティア学習研究年報Vol.1 1996 福祉教育・ボランティア学会の歴史と理念、東洋堂企画出版社 1996.
2）日本福祉教育・ボランティア学習学会機関誌編集委員会；福祉教育・ボランティア学習研究年報Vol.7 2002 ボランティアネットワークと大学の変容の可能性、東洋堂企画出版社 2002.

VII. 参考資料

<table>
<thead>
<tr>
<th>平成16年度 ボランティア個人カード回収結果</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1年生 106名</td>
</tr>
<tr>
<td>ボランティア活動を1時間でも行行った学生数</td>
</tr>
<tr>
<td>行った述べ件数</td>
</tr>
<tr>
<td>活動した月</td>
</tr>
<tr>
<td>8月</td>
</tr>
<tr>
<td>3月</td>
</tr>
<tr>
<td>12月</td>
</tr>
<tr>
<td>6月・9月</td>
</tr>
<tr>
<td>7月</td>
</tr>
<tr>
<td>11月</td>
</tr>
<tr>
<td>10月</td>
</tr>
<tr>
<td>1人の学生が行った累積時間</td>
</tr>
<tr>
<td>3〜143.5時間</td>
</tr>
<tr>
<td>活動した場</td>
</tr>
<tr>
<td>通所介護</td>
</tr>
<tr>
<td>特養</td>
</tr>
<tr>
<td>病院</td>
</tr>
<tr>
<td>地域</td>
</tr>
<tr>
<td>老健</td>
</tr>
<tr>
<td>地震被災地</td>
</tr>
<tr>
<td>身障</td>
</tr>
<tr>
<td>養護学校</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>--------------------------</td>
</tr>
<tr>
<td><strong>性別</strong></td>
</tr>
<tr>
<td>男</td>
</tr>
<tr>
<td>女</td>
</tr>
<tr>
<td><strong>高校でのボランティア経験</strong></td>
</tr>
<tr>
<td>あり</td>
</tr>
<tr>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td><strong>平成17年度ボランティア経験</strong></td>
</tr>
<tr>
<td>あり</td>
</tr>
<tr>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td><strong>ボランティア活動回数</strong></td>
</tr>
<tr>
<td>1～2回</td>
</tr>
<tr>
<td>3～4回</td>
</tr>
<tr>
<td>5回以上</td>
</tr>
<tr>
<td><strong>活動時間</strong></td>
</tr>
<tr>
<td>～5時間</td>
</tr>
<tr>
<td>6～10時間</td>
</tr>
<tr>
<td>11～24時間</td>
</tr>
<tr>
<td>24時間～</td>
</tr>
<tr>
<td><strong>活動のきっかけ</strong></td>
</tr>
<tr>
<td>（延べ数）</td>
</tr>
<tr>
<td>実習に役立つから</td>
</tr>
<tr>
<td>学習に役立つから</td>
</tr>
<tr>
<td>就職に役立つから</td>
</tr>
<tr>
<td>先生に薦められた</td>
</tr>
<tr>
<td>施設に頼まれた</td>
</tr>
<tr>
<td>掲示板で見た</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
</tr>
<tr>
<td><strong>活動してみての感想</strong></td>
</tr>
<tr>
<td>（延べ数）</td>
</tr>
<tr>
<td>学習に役立った</td>
</tr>
<tr>
<td>実習に役立った</td>
</tr>
<tr>
<td>就職活動に役立った</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
</tr>
<tr>
<td><strong>ボランティア活動にわなかった理由</strong></td>
</tr>
<tr>
<td>（延べ数）</td>
</tr>
<tr>
<td>興味なし</td>
</tr>
<tr>
<td>クラブが忙しい</td>
</tr>
<tr>
<td>アルバイトが忙しい</td>
</tr>
<tr>
<td>ボランティアの内容に関心が無い</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
</tr>
<tr>
<td><strong>今後行いたいか</strong></td>
</tr>
<tr>
<td>よい</td>
</tr>
<tr>
<td>いいえ</td>
</tr>
</tbody>
</table>
記述
○ボランティア活動の場
1年生；施設の行事の手伝い、グループホームでの話し相手、デイサービス、障害児関係施設、地域（倉賀地区会食会）、障害者施設など、
2年生；施設の行事の手伝い、グループホーム、知的障害・者施設、病院、地域（倉賀地区会食会）
○ボランティア活動のきっかけ（その他記述）
1年生；親に薦められて、友達に声をかけられた、ゼミとして参加した
2年生；何事も経験と思い参加した、その施設が好きだから参加した
○ボランティアをみての感想
1年生；障害児と高齢者の関わり方が違った、喜んでもらえた、自分から何かをすることは楽しかった、授業で習っていないことを学べた、実習では開けないことを職員に聞ける、行事の実際を知った。実習施設とは違った施設で違った雰囲気を感じた、利用者の違う面を見ることができた、将来ここで働きたいと思った
2年生；高齢者とのコミュニケーションのとり方を学んだ、実習後の施設で実習では見られない施設生活を見ることができた、たくさんの方に笑われて楽しかった、今まで経験できなかったことが経験できた、施設の雰囲気を知ることができた、ゼミで発表することの楽しさを味わえた、今まで会ったことの無い障害の方と接することができた、実際には動いたほうが覚えられる、実習後であったので、実習のお礼ができなかったのではないか、利用者と関わることで、利用者の気持ちを知ることができた、就職活動に結びついた、たくさんの方と接して、いろいろな関わり方がわかった、実習には無い気楽さがあって楽しめた
○ボランティア活動をしなかった理由
1年生；場所がわからない、時間と場所の都合が合わなかった、忙しい、知っているところでなかった、カードを渡してのボランティア半強制であり、受ける側にとって失礼
2年生；時間が無い、希望しても人数が多くてできなかった
○どんな条件が揃えばボランティア活動ができるか
1年生；学校から近いところであれば、地元であれば、自分でもいける距離であれば、知っているところであれば、気持ちが前向きになれば、身体障害者施設でしたい
2年生；近ければ、時間と場所が正確にわかり、自分の都合と合えば、バイトを減らせば
### 参考資料３ 平成16年度 介護福祉学科１年生 ボランティア活動内容一覧

<table>
<thead>
<tr>
<th>学生</th>
<th>実施月</th>
<th>実施時間</th>
<th>登録時間</th>
<th>担当</th>
<th>内容</th>
<th>感想</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>A</td>
<td>6</td>
<td>8 6</td>
<td>職員と協力者、会場設置、会場清掃、アフリカ</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>B</td>
<td>6</td>
<td>8 8</td>
<td>デザインツール、食事の活用、食事の活用、文具等</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>C</td>
<td>6</td>
<td>8 8</td>
<td>職員と協力者、会場設置、会場清掃、アフリカ</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>D</td>
<td>6</td>
<td>8 8</td>
<td>デザインツール、食事の活用、食事の活用、文具等</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>E</td>
<td>6</td>
<td>8 8</td>
<td>デザインツール、食事の活用、食事の活用、文具等</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>F</td>
<td>6</td>
<td>8 8</td>
<td>デザインツール、食事の活用、食事の活用、文具等</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>G</td>
<td>6</td>
<td>8 8</td>
<td>デザインツール、食事の活用、食事の活用、文具等</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>H</td>
<td>6</td>
<td>8 8</td>
<td>デザインツール、食事の活用、食事の活用、文具等</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>I</td>
<td>6</td>
<td>8 8</td>
<td>デザインツール、食事の活用、食事の活用、文具等</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>J</td>
<td>6</td>
<td>8 8</td>
<td>デザインツール、食事の活用、食事の活用、文具等</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>K</td>
<td>6</td>
<td>8 8</td>
<td>デザインツール、食事の活用、食事の活用、文具等</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>L</td>
<td>6</td>
<td>8 8</td>
<td>デザインツール、食事の活用、食事の活用、文具等</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>M</td>
<td>6</td>
<td>8 8</td>
<td>デザインツール、食事の活用、食事の活用、文具等</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>N</td>
<td>6</td>
<td>8 8</td>
<td>デザインツール、食事の活用、食事の活用、文具等</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>O</td>
<td>6</td>
<td>8 8</td>
<td>デザインツール、食事の活用、食事の活用、文具等</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>P</td>
<td>6</td>
<td>8 8</td>
<td>デザインツール、食事の活用、食事の活用、文具等</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>Q</td>
<td>6</td>
<td>8 8</td>
<td>デザインツール、食事の活用、食事の活用、文具等</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>R</td>
<td>6</td>
<td>8 8</td>
<td>デザインツール、食事の活用、食事の活用、文具等</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>S</td>
<td>6</td>
<td>8 8</td>
<td>デザインツール、食事の活用、食事の活用、文具等</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>T</td>
<td>6</td>
<td>8 8</td>
<td>デザインツール、食事の活用、食事の活用、文具等</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>U</td>
<td>6</td>
<td>8 8</td>
<td>デザインツール、食事の活用、食事の活用、文具等</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>V</td>
<td>6</td>
<td>8 8</td>
<td>デザインツール、食事の活用、食事の活用、文具等</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>W</td>
<td>6</td>
<td>8 8</td>
<td>デザインツール、食事の活用、食事の活用、文具等</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>X</td>
<td>6</td>
<td>8 8</td>
<td>デザインツール、食事の活用、食事の活用、文具等</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>Y</td>
<td>6</td>
<td>8 8</td>
<td>デザインツール、食事の活用、食事の活用、文具等</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>Z</td>
<td>6</td>
<td>8 8</td>
<td>デザインツール、食事の活用、食事の活用、文具等</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
地域に弱い防護施設、そして地域の災害対策もしくは地域の生活習慣を改善するための戦略を講じた。

地域は、地域住民の安心感や、地域の経済発展に寄与するという点で重要である。地域の資源を活用することにより、地域の経済発展を図ることも重要である。

地域の課題は、地域の経済発展のための戦略を講じるために、地域の資源を活用し、地域の経済発展を図ることも重要である。

地域の課題は、地域の経済発展のための戦略を講じるために、地域の資源を活用し、地域の経済発展を図ることも重要である。
### 参考資料 4 平成16年度 介護福祉学科2年生 ボランティア活動内容一覧

<table>
<thead>
<tr>
<th>学生名</th>
<th>実施月</th>
<th>実施時間</th>
<th>場所</th>
<th>内容・感想</th>
</tr>
</thead>
</table>
| 1       | 9      | 655       | 博多 | 自宅介護
| 2       | 10     | 7         | 宅地 | 宅敬介護
| 3       | 5      | 14        | デイサービス | 手話を通じて話が弾み出た。
| 4       | 6      | 8         | 総合病院 | 今後も続けたい。
| 5       | 7      | 6         | デイサービス | 手話で伝える。
| 6       | 8      | 6         | 地域病院 | 失敗した。改善目的は話し合う。
| 7       | 9      | 6         | 地域病院 | 自宅介護。
| 8       | 10     | 655       | 地域病院 | 〇〇病院に通っている。
| 9       | 11     | 125       | 地域病院 | 〇〇病院に通っている。
| 10      | 12     | 7         | 地域病院 | 〇〇病院に通っている。
| 11      | 13     | 7         | 地域病院 | 〇〇病院に通っている。

### 介護福祉学科におけるボランティア活動の取り組みの実現と課題

介護福祉学科におけるボランティア活動の取り組みの実現と課題について、以下に挙げた。

- 学生の実施時間の短縮
- 宿題の分散
- 実施場所の確保

これらの課題に対する対策として、以下に挙げた。

- 実施時間の延長
- 宿題の集中
- 実施場所の拡大
<p>| 8 | 4 | 老健 | 夏休み、利用者が喜ぶ様子が見えてよかった。 |
| 9 | 3 | 地域 | 教育者のアラクション波兰に興奮した。 |
| 10 | 6 | 12 | 老健 | 夏休み、地域の方々が楽しんだ。日間宿泊の受け入れの方々に会えなかった。 |
| 19 | 7 | 5 | 老健 | 過去の休日に、外は食事をしたり遊んだ人が来るように感じた。利用者にとっても楽しみである。 |
| 20 | 7 | 5 | 老健 | 過去の休日に、外は楽しんである。 |
| 21 | 6 | 15 | 老健 | 夏休みの休日に、外は食事をしたり遊んだ人が来るように感じた。 |
| 22 | 7 | 5 | 老健 | 夏休みの休日に、外は楽しになってきた。 |
| 23 | 8 | 7 | 知的歳差所 | 過去と現在の休暇の客席と作業を比較、日程変更を行った。 |
| 24 | 9 | 23 | 知的教育所 | 過去と現在の休暇の客席と作業を比較、日程変更を行った。 |
| 25 | 9 | 7 | 7 | 体育 | 飲み物の休日に、外は楽しになってきた。 |
| 26 | 6 | 8 | 体育 | 飲み物の休日に、外は楽しになってきた。 |
| 27 | 6 | 9 | 体育 | 飲み物の休日に、外は楽しになってきた。 |
| 28 | 6 | 9 | 体育 | 飲み物の休日に、外は楽しになってきた。 |
| 29 | 6 | 9 | 体育 | 飲み物の休日に、外は楽しになってきた。 |
| 30 | 6 | 9 | 体育 | 飲み物の休日に、外は楽しになってきた。 |
| 31 | 6 | 9 | 体育 | 飲み物の休日に、外は楽しになってきた。 |
| 32 | 6 | 9 | 体育 | 飲み物の休日に、外は楽しになってきた。 |
| 33 | 6 | 9 | 体育 | 飲み物の休日に、外は楽しになってきた。 |
| 34 | 6 | 9 | 体育 | 飲み物の休日に、外は楽しになってきた。 |
| 35 | 6 | 9 | 体育 | 飲み物の休日に、外は楽しになってきた。 |
| 36 | 6 | 9 | 体育 | 飲み物の休日に、外は楽しになってきた。 |
| 37 | 6 | 9 | 体育 | 飲み物の休日に、外は楽しになってきた。 |
| 38 | 6 | 9 | 体育 | 飲み物の休日に、外は楽しになってきた。 |
| 39 | 6 | 9 | 体育 | 飲み物の休日に、外は楽しになってきた。 |</p>
<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
</tr>
</thead>
</table>
| 40 | 8 | 14 | 19 | 特養
| 41 | 8 | 3 | 3 | 託健
| 42 | 6 | 8 | 地域
| 43 | 7 | 2 | 1 | 重め
| 44 | 6 | 5 | 1 | 託健
| 45 | 6 | 5 | 1 | 託健

ユニバーサルのボランティアは初めてで気分していた。
余暇のある方では、外での食事は良かったようだ。
多くの方と知り合うことができた。
夏休みの旅行、子供たちと楽しく過ごす時間は利用者にとって楽しみの一つである。
面接の会合、情報が含まれない方が良いので会合を行った。楽しもあった。
夏休み、普段見せない笑顔が送られたとも思う。
地域、子供たちと楽しく過ごした。
相談会の会合、もとに楽しむようにした。
地域、利用者は楽しむだした。
相談会の会合、もとに楽しむために。
相談会の会合、もとに楽しむために。